

SIGMUS 第20回 研究発表会 報告・質疑記録

1997年5月31日 名古屋音楽大学

(1) TFP による邦楽器の伴奏シュミレーションの教育への応用

竹内好宏 (亀岡高), 上符裕一 (阪大), 片寄晴弘 (LIST), 井口征士 (阪大)

記録: 荒木円博 (豊田中研)

現在の音楽教育の問題点の一つ「カラオケ伴奏を使っているため生徒にあったテンポで教育できない」を解決するため、「テンポ制御が容易なカラオケ」として Two Finger Piano を応用するという発表だった。

テンポ制御に関して、電子ピアノの打鍵でなく、もう少し邦楽器らしい見ためのものを使った方が視覚的な手がかりの点でも妥当ではないかという意見があった。一方、民謡の場合、演奏者間のタイミングあわせには視覚的な手がかりではなく、「合の手」が使われているので、慎重に扱うべきだとのコメントがあった。

(2) 音楽分析と可能世界

矢向正人 (九州芸工大)

記録: 荒木円博 (豊田中研)

作曲の際、ほかに選択し得た旋律に着目した発表だった。これに対して、聴く側での多義性をどう考えるかや、「可能世界」がどういった形で認知されるかといった議論があった。

また、発表の中で触れられていたシェンカー派の音楽理論に関して、原構造 (Ursatz) に抽象化していく過程が重要とのコメントがあった。

(3) Web 上での楽器データベースの構築— 小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録のデータベース化 —

坪井邦明 (千葉職業能力開発短大), 鈴木孝 (東京高専), 田中多佳子, 尾高暁子 (東京芸大)

記録: 荒木円博 (豊田中研)

発表の中でも、民族音楽学の立場からのコメントでも、楽器名の表記や、楽器の分類の難しさがとりあげられていた。

そのほか、楽器データベースを利用して、例えば楽器の進化の系統樹が作れるかどうかといった問いかけや、楽器データベースには文学研究における稀覯本データベース

(<http://www.lib.virginia.edu/etext/ETC.html>) のような価値があるのではないかとコメントがあった。

(4) パネルディスカッション: 音楽情報科学と音楽学, 作曲, そしてその教育

司会・コーディネーター: 村尾忠廣 (愛知教育大), 水野みか子 (名古屋市立大)

パネリスト: 水野みか子 (名古屋市立大), 藤井知昭 (中部大), 中村滋延 (京都芸術短大)

記録: 荒木円博 (豊田中研)

主に、音楽分析に関する議論と、作曲教育に関する議論が行われた。

音楽分析の結果を何に使うかについて、音楽学の立場の水野氏からは個々の分析技法の適用できる限界を知るため、民族音楽学の立場の藤井氏からは音楽の伝承の過程を知るため、そして作曲家の立場の中村氏からは制作のノウハウを知るためという回答があった。

また作曲教育に関しては、中村氏の教育経験から、music concrete などの現代音楽を対象とする場合、音楽単独ではなく、映像にあわせる音楽ないし音というアプローチをとる方が、比較的短期間に習得できるという説明があった。